

陽気ぐらじの天理教

ハ
の
の
ほ
ら

「八つのほこり」

皆様方の中で、幸せになりたくないと思っている方はおられるでしょうか。おそらくおられないと思います。世界中どこへ行っても、皆幸せになりたいと願うのが当然であります。

では、一体なぜすべての人間は幸せを願うのでしょうか。それは、もともと人間というものが、陽気で幸せな生活を送るべきものとして、この世に創り出されたからであります。私たち人間を創られた神様は、人間が互いに仲良くたすけあい、楽しく暮らす有様を見て、神も共に楽しみたいという思いから、私たち人間を創って下さったのでありますから、私たち人間は、自然に幸せを願うのであります。

しかし、現実にはどうでしょうか。親子の断絶、夫婦の不仲、医学が進歩しているにもかかわらず増加する病気、争い、不幸の姿を挙げればそれこそきりがありません。

なぜ、人間に陽気ぐらしをさせてやりたいという神様の思いから創られた人間がそのような不幸を招いているのでしょうか。それは、人間が神様の思いに沿わない自分勝手な心を使っているからであります。

では、人間を不幸にする自分勝手な心とはどういうものなのでしょうか。天理教の教祖は、私たちが毎日いろいろな心を使う中で、神様の思いに添わない心遣いを、「ほこり」に例えて教えて下さいました。

家の中のほこりを思い出して下さい。ほこりは毎日払えば何ともないのですが、掃除を忘れると積もり重なって、そのまま放っておきますと掃いても拭いてもとれない汚れになってしまいます。それと同じで、心の中のほこりも、毎日の心遣いを反省して、きれいに掃除をしていけば良いが、それを忘れると心に汚れが染み付いて、なかなかとれなくなり、改めるに改められない悪い心遣いが身についてしまうのです。

神様は心の使い方を大きく八つに分けて教えて下さいました。

一つ目は「をしい」という心遣い。あの人にこれをあげるのをおいしい、あんな奴にこんなことをしてやるのをおいしい、出し惜しみして人に迷惑を掛ける。これが「をしい」の心遣いであります。

二つ目は「ほしい」という心遣い。人のものを見ればむやみにほしく思い、その物に見合う努力をせず、与えを出さないで結果のみを求めたりする。これが「ほしい」の心遣いであります。

三つ目は「にくい」という心遣い。不都合があれば自分のいたらぬことを棚にあげて他人のせいにして憎み、あの人こんなことをしたといっっては憎み、人が成功したといっっては憎む、みんな「にくい」の心遣いであります。

四つ目は「かわいい」という心遣い。自分の子供だけかわいくて、そうでない人には冷たい仕打ちをする。これが「かわいい」という心遣いであります。

五つ目は「うらみ」という心遣い。あいつがこんなことをした、言った、としつこく恨み、人が親切でした忠告を恨み、良いことにつけ悪いことにつけ、人を仇にして恨む心遣いが「うらみ」のほこりであります。

六つ目は「はらだち」という心遣い。人が何かを言ったからと、すぐに腹を立てたり、自分が面白くないからといって少しのことに腹を立てたり、少しでも自分の意に沿わないことに「はらだち」の心をもって報いることもまたほこりであります。

七つ目は「よく」という心遣い。人より余計に物やお金を欲しがったり、人をおとシめてまで名誉や地位を求める心が「よく」であります。

八つ目は「こうまん」という心遣い。自分の知らないことでも知っているような顔をしたり、人よりえらい顔をして通りたいと思う心、また人のすることを見下したり、人の欠点をわざわざ探したりする、これが「こうまん」の心遣いであります。

これらを八つのほこりとして戒められています。その他に「うそ」と「ついしょう」の二つの心遣いもよろしくないと教えていただいております。

人間は自分の力で生きているのではなく、神様のおはたらきによって生かされていることを知り、いつも自分の心のほこりを掃除し、神様に感謝し、毎日を嬉しく楽しく、たすけあいの心で生きることこそが幸せへの道につながるのです。日々の感謝と反省が陽気ぐらしへの近道であります。